

年譜

- 1895年(明治28) 長野県小県郡上田町(現上田市)に生まれる。
- 1908年(明治41) 上京、画家を志し苦学。
- 1911年(明治44) 日本水彩画研究所に入所、大杉栄等と知り合う。
- 1916年(大正5) 第3回二科展に『サンジカリスト』『多摩川附近』初入選。
- 1917年(大正6) 第4回二科展に『小笠原風景』など4点出品、樗牛賞受賞。
- 1918年(大正7) 第5回二科展に『冬の海』『H氏肖像』など5点を出品、二科賞受賞。
- 1919年(大正8) 大杉栄をモデルにした『出獄の日の0氏』を第6回二科展に出品し、撤去を命じられ、物議をかもす。
- 1920年(大正9) 3月兜屋画廊にて初個展。二科会友となる。
- 1921年(大正10) 7月渡欧その間パリ、ベルリンに滞在。
- 1923年(大正12) 2月大杉栄フランスに現れるが5月に逮捕、日本に強制送還。イボンヌと同棲。
- 1925年(大正14) 12月エクスに行きセザンヌのアトリエを借りて制作。
- 1926年(大正15) 5月帰国、春陽会会員となる。
- 1927年(昭和2) 第5回春陽会展に瀟吹作28点を特別展示。秋田富子の同棲のち結婚。
- 1928年(昭和3) 再渡欧。長女聖子誕生。
- 1929年(昭和4) 4月帰国。春陽会展に『クキイの橋』など7点出品。
- 1934年(昭和9) 4月第12回春陽会に6点出品。7月春陽会を脱退。日動画廊で個展。
- 1935年(昭和10) 5月帝展松田改組後無鑑査指定。千葉県市川に住む。大阪美術新論画廊で個展。
- 1936年(昭和11) 第11回国展に招待出品。帝展第二部新人展審査員。
- 1937年(昭和12) 第1回新文展に出品。同展審査員。東京市杉並区に転居。妻富子と別居し、高橋操と同棲。
- 1938年(昭和13) 房総半島鶴原に移住。
- 1939年(昭和14) 次女葉子誕生。房総の御宿に転住。日動画廊で個展。
- 1941年(昭和16) 浦和市別所稲荷台に両親と共に住み、二階を画室とする。
- 1943年(昭和18) 日動画廊で日本画展(野間仁根・熊谷守一)開催。長男木平誕生。
- 1945年(昭和20) 1月急死。
- 1957年(昭和32) 10月ブリヂストン美術館にて遺作展開催。
- 1967年(昭和42) 9月～10月林俊衛遺作展が長野県信濃美術館、山本鼎記念館と巡回展開催。
- 1968年(昭和43) 6月銀座サエグサ画廊にて林俊衛遺作回顧展開催。
- 1988年(平成元) 6月長野市のギャラリー82にて「林俊衛展」開催。
- 1996年(平成8) 不忍画廊にて「没後50年林俊衛展」開催。
- 2010年(平成22) 東京のキッド・アイラック・アートホールと新宿の酒場「風紋」にて「林俊衛没後65年その孤愁のゆくえ展」開催。
- 2015年(平成27) 東御市梅野記念絵画館にて「生誕120年・没後70年 林俊衛展」開催。

原絵は「出獄の日の0氏」長野県信濃美術館蔵

2015年展覧会スケジュール

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大展示室	林 俊衛展 4/11～6/28	私の愛する 一点展 7/4～8/30	とうみ現代 彫刻三人展 9/5～10/25	山内達雄展 10/31～1/17	収蔵品整理のための休館	梅野記念絵画館 の美展					
ふれあい館	青木繁 デッサン展 4/11～6/28	清水 朗の 動物画展 7/4～8/30	梅野コレクション —彫刻展 9/5～10/25	荘司貴和子 アンコール展 10/31～1/17						市民ギャラリー 未定	

2015年イベントスケジュール

- 4月26日(日) 桜の季節の物語コンサート 前売り1500円13:30～(美咲蘭とドラマシユール星座・語りの会)
  - 5月24日(日) ヴィオラコンサート(要予約)入館料800円13:30～
  - 6月20日(土) 青木繁を語る(館長 佐藤修)入館料800円13:30～
- 施設情報、開館案内  
東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>  
〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1  
TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp  
開館時間 午前9時～午後5時(4時30分迄にご入館ください)  
入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)  
身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。  
休館日 4月13、20、27日 5月7、11、18、25日 6月1、8、15、22日

アクセス

- お車 練馬ICから2.5時間
- 鉄道 東京から最速2時間
- 関東、北陸方面から 上信越東部海の丸インターから15分
- 中部、関西方面から 長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分
- 関東、北陸方面から 北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- 中部、関西方面から 特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信! Tune In! エフエムとうみ 78.5MHz リクエスト、メッセージは m@fntomi785.jp



爆発するただ一瞬があればいい

林 俊衛展

2015年4月11日(土)～6月28日(日)



オープニング ギャラリートーク  
4月11日(土)13時～林聖子氏父を語る  
会期中5月19日(火)から展示替えあり  
同時開催: 青木繁デッサン展

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162



## 絵描き・林俊衛

小崎軍司氏の著書「林俊衛」（三彩社、1971年）を読むこと三度目、ふいに、ある二文字が眼に留まった。39ページ、第二章の章句にその言葉はあった。「純心」である。それは林俊衛という人物の生き方を形容する言葉として用いられていた。「第二章 貧しさの中で純心貫く」と。

林俊衛を見る視座が定まらず、もどかしさにじりじりしていたところに、この言葉は透明な光を放って私の胸深くに溶けこんだ。これ以上に的確な言葉はない。「純真」ではなく「純心」。言い得て妙とはこのことか。

朴訥で濁りない心の男に人は惚れ、その絵を愛した。画家は無類の酒好きであり、酔いの切れ間に訪れる冴え冴えとした時間は短く、その間は一心に絵を描いた。全身で生きた芯からの絵描きであった。

生命の充実と自由を求め続け、高潔で純粹な精神と詩情豊かな作品を遺し、道半ばで逝った詩人画家・林俊衛の芸術世界をご高覧ください。

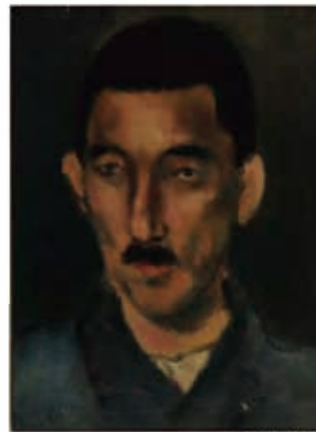
東御市梅野記念絵画館  
館長 佐藤 修



三彩社 小崎軍司著 「林俊衛」より転載



H氏肖像



康氏肖像



ポトレイト・オブ・サンジカリスト (渡枝次朗)



積藁 埼玉県近代美術館蔵



鶴原の海



暮色 (妙高)